



第 38 回

コロナ禍に負けず第 20 回の記念すべき「夢アイデアまちづくり」交流会を終えて

令和 5（2023）年 1 月

2019 年 12 月に中国で発症が報告された新型コロナウイルス感染症は、今なお感染の勢いが収まらず、私たちの日常生活の営みを妨害し続けています。毎日、勤務先や学校ではいつもマスクを着用せねばならず、友人や同僚たちとの会話も控え目にして飲酒を伴う会食や長時間の集会も自粛を求められています。特に、一生のうち一度しか経験できない学校生活を送る子どもたちにとっては、若いエネルギーを発散しての思い出づくりが十分できずまことに可哀そうな限りです。

このような 3 年越しにおよぶ忌まわしいコロナ禍にも負けず、今年度は、記念すべき第 20 回目の「夢アイデアまちづくり」の募集事業、ならびに 1 次審査をパスした 10 件のプレゼン交流会が対面とオンラインのハイブリッド方式で開催されました。今回から、最優秀賞の賞金が昨年までの 10 万円から 20 万円に増額され、応募件数の大幅な増大が期待されましたが、結果的には昨年並みの合計 48 件に留まったのはいささか残念でした。ホームページやポスター、福岡地区の地下鉄・JR の車内広告を通じての募集でしたが、まだまだ本事業の認知度の不足の感が否めないのはいささか残念です。

また、これまで 10 歳代の小学生から一般成人まで同じ土俵の中で審査をしなければならない難しさから、今回からは小中学生以下のジュニア部門を新設し、高校生以上の一般部門と分けて募集することになったのは、審査する私たち審査員の立場からも大変歓迎すべきことでした。今年度の応募者は、北は北海道から南は沖縄県まで、年齢別では 81 才から 8 才までときわめて広範囲に分布し、また年金生活者のお年寄りから、自営業、サラリーマン、主婦、大学生、小中学生まで、さまざまな職業の方々からの応募が得られ、まさに本事業がオールジャパンの企画となったことの証ではないかと喜ばしい限りです。


一般部門 32 件、ジュニア部門 16 件の応募提案は、高齢者の健康や支援、育児世代の公共交通、地方の過疎化、公共空間の遊び場への有効利用など、現代の世相を反映した身近な生活者の立場からのアイデアや、海上ロープウェイやドローンによる離島間物流や亜熱帯地域での日射対策、大学誘致による離島振興など、実現性には課題はあるものの壮大なアイデアまできわめて多彩な提案の山積でした。一次審査において、6 名の審査員が書面審査段階で最優秀作 1 件を選定するのですが、今年度も昨年度同様、全員が重複することなく個別の提案を選んだことから、応募提案がいずれ劣らぬ優れた独創的アイデアの集まりであったと言えます。

さて、今回の一般の部の最優秀賞の受賞提案は、「誰も取りこぼされない安心な生活ができるように『スマート四阿(あずまや)』の提案」でした。昔のように近所同士で助け合うコミュニティがなくなった現代において、町や村の集落のショッピングセンターや公共空間の一角に、役所と直結した通信機能付きの小スペースを設置し、誰でも気軽に困りごとを相談したり疲れた心身を癒せる小スペースを設置するというアイデアです。また、優秀賞には、人口減少で衰退する離島に大学を誘致して学園都市として世界中から学生や教職員を集めて活性化を図ろうという「吉岐の島・学園都市建設計画」が選ばれました。実現性には課題が残るものの、地元愛にあふれた夢のあるアイデアが高く評価されました。そして偶然とは申せ、今回両賞を受賞されたお二人は、ともに社会の第一線を既に卒業されたご高齢者であったことに思わず驚嘆しました。

一方、ジュニアの部では、海のごみ集めをしてプラスチックごみをリサイクル化するだけでなく、持続的な活動をめざすアイデアを提案した中学2年生の「SDGsと海とリサイクルな街」が最優秀賞に、また近所の雑草が繁茂した河川敷を整備して、ドッグラン、サイクリング、ランニングコースなどに有効活用しようと提案した小学6年生の「川原の土地を有効活用」が優秀賞にそれぞれ選定されました。その他、田舎の空き家になった家々を有効利用して、地元コミュニティの協力の下で勉強やさまざまな体験学習のできる「空き家習い事教室で子育てにやさしいまちづくり」など、現代の抱えたさまざまな社会的課題の解決策としての建設的なアイデアが多数提案されました。自分たちの住むまちの現状の社会的課題をしっかり受け止め、よりよい環境づくり、住みよいまちづくりを考えてくれる小中学生が多数いることをあらためて心強く感じる事ができたとともに、「夢アイデア」企画の存続の意義を再認識させてくれたことをうれしく思っています。

なお、交流会では、第二次審査のプレゼン終了後に、ゲストとしてご出席の鹿児島大学名誉教授の山田誠先生ならびに本夢アイデア事業の発案者である針貝武紀夢アイデア部会特別顧問のご講演がありました。ご高齢にも関わらず、今も熱い志しを持ち続けられておられる講師のお二人、そして前述のとおり、今回の一般の部の最優秀賞および優秀賞を獲得された受賞者のご両名といい、高齢者の活躍が印象的だった今年度の夢アイデア交流会でした。

合わせて、若い応募者およびジュニア部門の応募者の皆さんにリクエストです。皆さんの提案される夢アイデアは社会的ニーズが高く発想もすばらしい上に実現性においても決して劣らないものが多いと感心しています。反面、昨今の暗いニュースが多い世相を思うと、たとえ実現性には遠く及ばないとしても、もっともっと大胆な夢を描いて欲しい、もっともっと明るい未来のまちづくりの夢を見せてもらいたい、との感想を抱いた今回の審査でした。終えたばかりですが、今から来年度の夢アイデアを楽しみにしています。



最後に、長年にわたり審査委員としてご尽力いただきました中川正裕様(一般社団法人九州経済連合会顧問)が今回限りで退任されます。この場をお借りして、同氏のこれまでの多大なるご尽力に対し深甚なる感謝の意を表する次第です。

日野 伸一（九州大学名誉教授）
夢アイデア審査委員会委員長（令和3年～）

